

2010年01月22日(金)

LED回路省エネ性能向上 消費電力25%削減 照明ブランド立ち上げへ

特殊電源装置製造の光洋電子工業(忍野村内野、後藤光敏社長)は、省エネ性能をアップさせた発光ダイオード(LED)用の電源回路を開発した。従来品に比べ消費電力を25%以上削減でき、LED劣化の原因となる発熱を15%以上抑えた。今後、LED照明の部品を製造する中小企業と連携し、オリジナル照明ブランドの立ち上げを目指している。



光洋電子工業が開発したLED照明用の電源回路(左)と従来品

新製品は省電力で熱を発生させにくくしたと同時に、回路内の蓄電器素材をアルミからセラミック製に切り替え、耐久性を高めた。対策により省電力化だけでなく、5年程度とされるLEDの耐用年数は約2割延ばすことができるという。

回路のサイズは縦1・9センチ、幅3・5センチで従来の4分の1程度にダウンサイジングし、小型照明器具にも組み込めるようにした。光のちらつきを抑える調光技術も独自開発し、オプションで追加できる。

同社は回路の販売と合わせ、4月をめどに装置を組み込んだ独自の照明器具ブランドを立ち上げる。これまでに発光部分や絶縁体など、LED照明の部品製造を手掛ける全国の中小企業5社と提携。試作品を耐久テストにかけると、商品化に向けた準備を進めている。

同社によると、2015年の国内でのLED照明市場は1兆円に成長する見通し。新ブランドを大手商社などに売り込み、将来的には5～10%程度のシェア獲得を目指す。

後藤社長は「中小企業として部品製造だけでなく、照明商品の開発や製造を主体的にできるようにし、下請けからの脱却を図りたい」と話している。